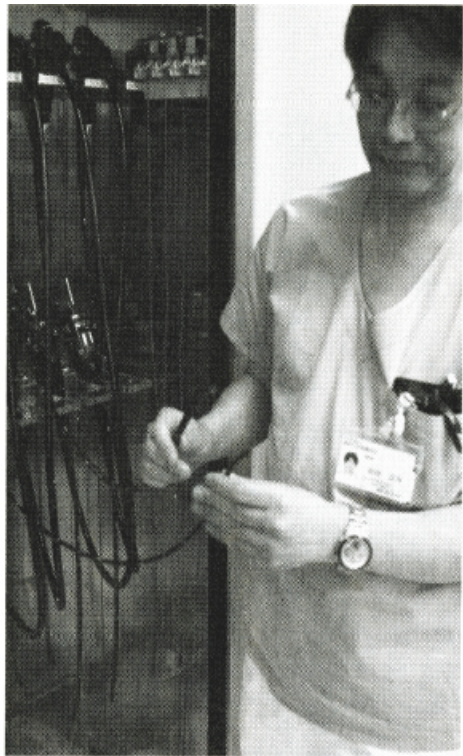


# ピロリ菌なくせ



製鉄記念室蘭病院

今年2月から「ヘリコバクターピロリ感染胃炎」の除菌治療に保険が適用されたのを受け、先行的に「ピロリ菌専門外来」を開設し除菌を行ってきた室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院（松木高雪院長）の前田征洋副院長（日本ヘリコバクター学会ピロリ菌感染症認定医）は「専門医は胃がんの撲滅元年と位置付けており、検査と除菌治療の拡大を」と、市民に受診を呼び掛けている。

（佐藤重理）

## 専門外来、2月から保険適用 胃がん予防へ受診を

ピロリ菌は胃がん発症の最大原因だが、除菌で発症を3分の1に減少させられる。これまで「胃・十二指腸潰瘍」「早期胃がん内視

鏡治療後」など一部の病気が除菌が保険診療の対象にならなかったが、国は最も対象者の多い「胃炎」患者にも拡大した。同病院は2009年に専門外来を開設し、自費診療で検査と除菌に対応。約3000人を検査し、感染者200人の除菌を行った。前田副院長は「この病院の消化器内科外来でも、安価に検査と除菌を受けられるようになったのは画期的だ。胃がん発症は今後急激に減少するだろう。専門外来は1、2次除菌がうまくいかなかった場合のみ3次除菌（保険外）を担う」と説明する。

従来3〜5万円掛かった費用が数千円で済むとあって、既に検査を希望する人らかの問い合わせも増加。水道の普及など衛生環境の改善で若者の感染率は低いと、60代以上は約8割が感染しているとされるだけに検査需要は大きい。血液検査などでピロリ菌が確認された場合、さらに内視鏡検査を行いその上で薬を7日間服用し除菌する。「内視鏡検査は必要。この段階で初期のがんの発見も増加するでしょう」（前田副院長）と、胃がん予防への関心の高まりに期待している。

胃がん予防に効果的なピロリ除菌拡大に期待する製鉄記念室蘭病院の前田副院長